

KUNSTRAUM

2026年5月2日(土) 13:30 開場 14:00 開演

青山音楽記念館 バロックザール

ープログラムー

長島 剛子《ソプラノ》

福原 教恵《ソプラノ》

梅本 実《ピアノ》

H.ロイター

Die Nacht 夜 op.67-2

E.W.コルンゴルト

Glückwunsch 幸せを祈る op.38-1

R.シュトラウス

Allerseelen 万霊節 op.10-8

C.ドビュッシー

亜麻色の髪のエ女

アナカプリの丘

全席自由 ¥2,000

*未就学児のご入場はご遠慮ください

*チケットはQRコード、またはメールアドレスよりお申し込みください



kunstraum.kyoto@gmail.com / 070-1836-2542

お問い合わせ：KUNSTRAUM 実行委員会

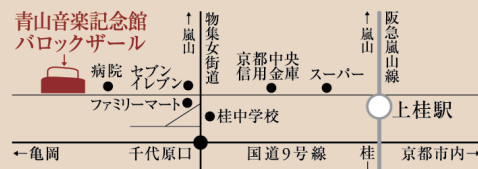
後援：国立音楽大学 京滋奈良同調会

*お客様用の駐車場はございません ご来場の際は公共交通機関をご利用ください

他

バロックザール
Barocksaal
京都 青山音楽記念館

お問い合わせ
tel.075-393-0011
9:30~18:00 月・火 休館
〒615-8282 京都市西京区松尾大利町9-1
<https://barocksaal.com/>



阪急電車嵐山線「上桂」駅下車西へ300メートル
ご来場の際は公共交通機関をご利用ください。

KUNSTRAUM

〈Kunstraum〉とは、ドイツ語で「芸術の空間」という意味を持つ言葉です。8回目となる今回のテーマは「祈り」としてお届けいたします。静寂の中に響く“祈り”のかたち――。

歌とピアノが織りなす音の対話を通して、時代や国を越えて受け継がれてきた祈りの音楽をお届けします。宗教的な祈り、愛や平和への願い、心の奥にそっと灯る希望。言葉と旋律が重なり合い、やさしく、時に力強く、聴く人それぞれの心に寄り添います。

やわらかな陽光が降りそそぎ、自然がいいきいきと息づくこの季節に、どうぞひととき日常を離れ、音楽の豊かな響きに包まれる時間をお楽しみください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。



長島剛子 NAGASHIMA Takeko 〈Soprano〉

札幌に生まれる。北星学園女子高等学校音楽科を経て、国立音楽大学声楽科卒業。同大学院修士課程独歌曲専攻修了。ドイツ・ゲトモルト音楽大学卒業。その後ケルン音楽大学マスタークラスにてリート解釈法の研鑽を積む。1998年に「長島剛子・梅本実 リートデュオ」を結成し、声楽とピアノによる緊密なコラボレーションにより、19世紀末から20世紀のドイツ歌曲の演奏と紹介を軸に継続的な活動を続けている。2001年にスタートした「世紀末から20世紀へ」のリサイタルシリーズは16回を数え、その間、知られざる作曲家を含め、のべ40人の近現代作曲家の作品を取り上げたが、19世紀末以降のドイツ歌曲を網羅するレパートリーの広さは他の追随を許さない。またシリーズごとにテーマを設定し、様々な切り口でドイツ歌曲をプログラミングする独自の企画とその演奏水準の高さで毎回多くの反響を得ている。1998年「新ウィーン楽派」、2001年「世紀末から20世紀へ」のリサイタルにより札幌市民芸術祭大賞。また2003年1月には前年の「長島剛子・梅本実リートデュオ・リサイタル―世紀末から20世紀へ Part II」（シェーンベルク：「架空庭園の書」による15の歌曲他）により平成14年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞している。青木恵美子、伊藤京子、尾畑真知子、H.クレッチマー、白井光子、H.ヘルスの各氏に師事。現在、国立音楽大学及び大学院教授。

これまでに「架空庭園の書～新ウィーン楽派の歌曲を集めて～」（コジマ録音）、「光の中のベルリン～第三帝国で禁じられた歌曲～」（Rec Lab/朝日新聞、読売新聞夕刊推薦盤）、「遠望～ヘルダグリーンの歌曲」（Rec Lab/毎日新聞夕刊特薦盤）、「至福の憧れ～ゲーテ歌曲の現在」（Rec Lab）の4枚のCDをリリース。「新ウィーン楽派によるドイツ歌曲集 シェーンベルク/ベルク/ヴェーバーン」（音楽之友社）の楽譜を監修。



福原教恵 FUKUHARA Michie 〈Soprano〉

山陽女子高等学校音楽科ピアノ専攻卒業。国立音楽大学音楽学部音楽教育学科音楽教育専攻リトミック専修卒業。フェリス女学院大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。矢部禮子、依田喜美子、長島剛子、平松英子の各氏に師事。在学中よりピアノ、声楽、伴奏法、身体表現など幅広い分野で学ぶ。中でも特に歌に魅了されドイツ歌曲、宗教音楽を中心に研鑽を積む。地元岡山でのジョイントコンサートを始め、東京、神戸などでコンサートに出演している。現在、立命館宇治中学校・高等学校教諭。



梅本実 UMEMOTO Minoru 〈Piano〉

長崎に生まれる。幼少の頃よりピアノを始め、福岡音楽学院で学ぶ。東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て、同大学院修士課程器楽専攻（ピアノ）修了。末永博子、勝谷壽子、伊達純の各氏に師事。ドイツ・ゲトモルト音楽大学卒業。さらに引き続きハンブルクにて研鑽を積む。R.F.クレッチマー、C.ハンゼンの各氏に師事。帰国後東京、札幌、福岡各地でソロリサイタル開催。札幌交響楽団、九州交響楽団と共演。またドイツ歌曲の共演ピアニストとして各地で幅広い活動を続けている。文部省在外研修員としてドイツ・カールスルーエ音楽大学において白井光子・H.ヘルスのドイツ・リート解釈法クラスで学ぶ。作品内容の的確な把握に基づいて、響きを繊細にコントロールするピアニズムは長島とのリートデュオに遺憾なく発揮されている。札幌市民芸術祭大賞（1999年、2002年）、第9回道銀芸術文化奨励賞（2000年）、第29回札幌文化奨励賞（2001年）、平成14年度文化庁芸術祭優秀賞（2003年）受賞。北海道教育大学助教授等を経て、現在、国立音楽大学及び大学院教授、学長。